

## 第3回 塩津地区

### まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成29年10月29日（日）

午後1時30分～午後4時30分

会場：塩津公民館 講義室

主催：蒲郡市

#### プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
検討の進め方とスケジュールについて	1：50
塩津地区の地区利用型施設再配置プラン案について ・塩津地区の課題と課題解決に向けた方策 ・地区利用型施設再配置プラン案	2：00
(休憩)	2：30
グループ討議 ・地区利用型施設再配置プランの検討 ・評価の視点の検討	2：40
(休憩)	3：50
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

#### <目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 . . . . . 1
- ・ 第2回ワークショップの結果概要（案） . . . . . 2
- ・ 進め方とスケジュール . . . . . 10
- ・ 第2回ワークショップふりかえりシートご意見 . . . . . 14
- ・ 事実関係についてのご意見・ご質問への回答 . . . . . 18
- ・ 塩津地区の課題と課題解決に向けた方策 . . . . . 20
- ・ 再配置プランの考え方 . . . . . 21
- ・ 塩津地区 地区利用型施設再配置プラン案 . . . . . 22
- ・ 評価の視点 . . . . . 24
- ・ 本日の検討内容 . . . . . 25
- ・ 各種参考資料 . . . . . 26

## 次回ワークショップのご案内

「第4回塩津地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようよろしくお願いいたします。

### 1 日時

平成29年12月16日（土）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

### 2 会場

塩津公民館 2階 講義室

### 3 お願い

- 当日利用する資料を郵送で事前配布する場合があります。その際は、当日、資料をご持参下さい。
- 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

### 【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp

## ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

### 蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた塩津地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

## 第2回ワークショップの結果概要

### 1 公共施設マネジメント実施計画について

#### ■ 基本的な考え方

- ワークショップで語られる意見は理想だと思うので、それらを全て実現しようとするコストがかかってしまう。限られた税金の中で何ができるのかを考え、実現に向けて現実的な話をする必要があるのではないか。
- 人口が減る前提で考えているが、もし今後人口が増えた場合に公共施設が足りなくなっては困る。全体の人口は減っていても高齢者は増え、ある時期を境に減り始めるという推計も踏まえると、時間軸も考慮しながら、人口が増えた場合でも柔軟な対応ができるように考えておくべきではないか。
- 塩津地区の人口が減少していく予測になっているが、その要因を分析し、改善策を考える必要がある。推計の考え方や人口減少の理由を知りたい。
- 市全体としての長期的な予測や将来ビジョンを見据え、その中に塩津地区を位置づけて考えるべきではないか。学校の統廃合など、塩津地区のことだけを考えれば良いわけではない問題もある。

### 2 課題解決に向けた視点

#### ■ 視点全般

- 8つの視点全てを同等に重視するのは難しいだろう。案を選択する際には、評価する優先順位を決める必要があると思う。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### ■ 8つの視点ごとの課題と解決策

#### ① 地区の活性化（まちづくり）

- 祭りなどの地域行事が総代区ごとに行われているので地区全体としての一体感がないのに加え、参加者が高齢化し、子育て世代が参加しなくなってきた。公共施設を複合化することで行事や活動を一体的にできる場を作り、活性化に結び付けられると良い。地域に関心のある若い世代もいるので、例えば学校を核にした複合施設を作れば、子どもから親の世代までが自ずと集まる場になるのではないか。
- 駅周辺などに集客性のある、地区の顔となる施設を整備し、情報発信をすることで、地区の特徴をつくり、電車の利用者数の増加や地域活性化につなげたい。新しく施設を作らなくても、既存施設を活用して場をつくることも可能だろう。
- 塩津地区内に働いて生活をしていけるような雇用を創出する企業がないことで、人口が流出してしまうのであれば、活性化のためには企業誘致をするのが良い。

#### ② 子育てしやすい環境づくり

- 公立の保育園は施設が老朽化しているだけでなく、延長保育や低年齢児保育の未実施、入園手続きの多さなど、保護者のニーズに答えられていないために園児の数が減っているのではないか。施設をどの様に再編するにしても、ニーズを把握し、それに対応したサービスを提供する必要がある。
- 塩津地区の子どもの状況や保護者のニーズを把握するには、公立保育園のみではなく、私立保育園の園児も含めて考えなければいけない。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 公立保育園の園児が減っている原因を分析し、利用者の要望に添えていく必要があるが、それができないのであれば全ての保育園を民営化しても良いと思う。
- 公立保育園はプログラムを詰め込みすぎず、伸び伸びした保育をしているのが良い点であり、特性だと思うので、集約化、複合化してもそれを失わない様に配慮してほしい。
- 塩津、塩津北、鹿島の各保育園はそれぞれに特色があり、地域に密着しているので、徒歩で通える良さや地域とのふれあいも考慮し、複合化や集約化をせず今のまま存続することを検討してほしい。
- 保育園を集約する必要性を丁寧に説明するとともに、児童館などのアクセスしやすい場所にある施設に集約したり、通園バスを通すことなどでアクセスを確保できれば、徒歩圏内に保育園がなくても市民の理解は得られるのではないか。
- 保育園と小学校の複合化を進めたり、幼小中一貫校や小中一貫校にすれば、コスト面だけでなく、園児、児童、生徒の世代間交流が深まるという利点がある。
- 児童館の児童クラブは現状でも定員いっぱいに入れないと聞いているので、近接した塩津小学校と連携して学校内に児童クラブを設けることを検討するとともに、今後子供の数が増え、増員が必要になった場合にも対応できるだけのスペースを確保する必要がある。
- 市内の発達支援児や日本語学習が必要な生徒を集めて、サービスを提供できるような施設があると良い。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### ③多世代が利用できる場の創出

- 小、中学校に公民館の機能を複合したり、小学校、児童館、保育園、公民館を複合することができれば、多世代交流が生まれ、高齢者の生きがいにもつながり、地区全体が元気になると思う。学校の空き教室や体育館を公民館としても利用でき、駐車場も共有できるので、無駄がなくコストも削減できる。
- 公民館は多世代交流の核となる施設だと思うので、民間の喫茶店を入れるなどして開かれた雰囲気を作り、地域の様々な年代、国籍の人が気軽に訪れて交流できる、溜まり場のような施設にしたい。
- 障がい者や高齢者が不便なく利用できる様に、多世代交流の場にはエレベーターなどを設置し、バリアフリー化する必要がある。
- 居場所づくりとしての「いきいきサロン」はまだ始まったばかりで広く知られていないため、現状では高齢者が中心となっている。小さな子どもがいるような若い世代にも情報を伝え、訪ねてきてもらえるようになると活性化すると思う。
- 「いきいきサロン」は社会福祉協議会などに認めてもらえれば補助金が出るが、個人でやろうとすると補助金が出ないので実施できない。補助金の原資は、住民から寄付を募った善意のお金の一部のため、その利用方法として不公平感が出てきている。高齢者のサロンやカフェは、まず地域で志を持った方が地区の総代や区議員に相談し、総代が地域包括支援センターに相談に行き実現することが多い様だ。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### ④安全の確保

- 小中学校や塩津公民館は老朽化が進んでいるので耐震性に不安がある。小、中学校の耐震化を図ったり、公民館はしおつ児童館などの新しい施設に複合するなどの対策を早急に取り組む必要がある。
- 学校に施設を複合する際に、出入口をその他の施設とは別にすれば、学校への不審者侵入対策になる。

### ⑤災害時の対応

- 集約化、複合化によって公共施設の数が増減すれば、避難所や避難場所の数が増減することにつながるため、災害時対応の視点から考えれば公共施設は減らさず、ある程度分散していた方が良い。
- 津波に対応した訓練を実施するとともに、津波時にも使える避難施設の確保が大切だ。
- 中学校と小学校は立地が異なるので、津波時には丘の上の中学校、山が崩れて中学校が使えない時は低い土地にある小学校が使えるなど避難所として補完しあえる。小学校と中学校を集約化してどちらかがなくなるとしても、建物と避難所機能は残すべきだ。
- 避難所は数を整備するだけでなく、仮設住宅ができるまでの中長期的な避難にも対応できるように、トイレやお風呂などの水回りの衛生面にも配慮する必要がある。避難訓練を充実し、多くの人に参加してもらうことも重要だ。
- 災害時の対応は個人では難しいので、地域ぐるみの課題として考える必要がある。



## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

### ⑥アクセス性への配慮

- 小学校と中学校を集約化すると、どちらに集約したとしても家から遠い人が出てくるので集約化しない方がいい。
- 小中一貫校を作った際でも、小中の学区が同じなので塩津地区内のどの場所からも徒歩で通学できる。アクセス性にも問題がない。
- 施設を集約化、複合化する際には、そこまで安全安心に行けるように通学路を整備する、公共交通機関を充実させる、集会所などの地域内で身近にある施設の活用を考えるなど、アクセスの確保や代替えになりうる施設との分担を考える必要がある。
- 保育園や子ども園、小学校は車を所有していなかったり、乳幼児の弟妹を抱える家族にとっても送迎しやすい立地にしてほしい。
- アクセス性の良さという観点から考えると、車でないと来られない人が多い公民館の設備や機能を充実させるよりも、歩いていける距離にあり、住民により親しまれている集会所を充実させた方が良い。ただ、集会所も老朽化しているので、もし集会所に公民館機能を持たせる場合は、建物を修繕して耐震性を高めることが必須だと思う。
- 避難所は沿岸部地域から避難しやすい立地になっていることが重要だ。

### ⑦将来負担（コスト）の縮減

- 将来的に人口が減っていく中で、身の丈にあった施設づくり、地域づくりをしていかななくてはならないと思う。公共施設の建設費と維持費をできるだけ抑え、複合化、集約化によって投資を集中させることで、公共施設の機能を充実させれば良いのではないか。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 定員割れしている保育園の集約化や幼小中一貫校化ができれば、運営コストも人件費も縮減できるのではないか。住民を管理、運営ボランティアとして活用したり、NPO や市民クラブなどの民間への事業委託を進めることで、ランニングコストを減らすこともできる。
- 施設を再編することで跡地が発生する場合は、地価の安い方に集約、複合し、高い方の土地を売却することで、予算捻出の助けにできると良い。
- 使われず、管理も十分されていない小さな公園は別の用途にして土地を有効活用する、倉庫に保管されているが使用していない備品は整理するなど、余計な出費を抑え、無駄なく活用することが大切だ。
- 南海トラフ大地震への備えなど、国や県の補助金等を施設改修などに用いることでコスト軽減が図れるのではないか。
- 30 年後、40 年後に必要となる次の老朽化対策費用も視野に入れるのが良い。

### ⑧運営の改善

- 地区の活性化はそこに住む人々の交流にあり、場を作るだけでは交流は生まれにくい。公民館を様々な人が集まる、たまり場にしていくためには、ハード＝施設づくりではなく、そこに地域の人を巻き込めるソフト＝運営が重要になる。ソフトを考え、実施できる職員が必要だ。
- 塩津公民館は、年代や居住地区に関わらず、誰もが参加したくなるような魅力的な行事やプログラムを提供し、広く情報の発信していく必要がある。若い世代の公民館利用率を向上させ、関心を高めることができれば、地域への関心も高まるのではないか。
- これまでの公民館利用の仕方の枠を超えて、講座やイベントだけでなく、仕事や会議、自習などの様々な利用ができる場になると良い。

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 市から管理費をもらい、地区の子ども会が中心となって公園の管理などを行っているが、住民の負担を軽減させるためには、市から業者に委託する方が良いと思う。
- 各総代区にある集会所は地区にとって大切な施設なので、利用率を上げるためにも集会所で実施される企画内容の充実が必要だ。

### ■ 追加すべき視点

- 塩津地区には外国人が多いので、外国人（多民族）にとっても安心安全で住みやすいまちにすることが大事である。外国人が増えれば人口減少に歯止めをかけることができ、それをまちの特色にした面白いまちづくりにもつなげられる。「多文化共生」「外国人（多民族）対応」の視点も加えたい。
- 人口が減ることばかりに着目せず、増加する高齢者への対応をもっと考えるべきではないか。「高齢者、要介護者、障がい者への視点」が欠けている。

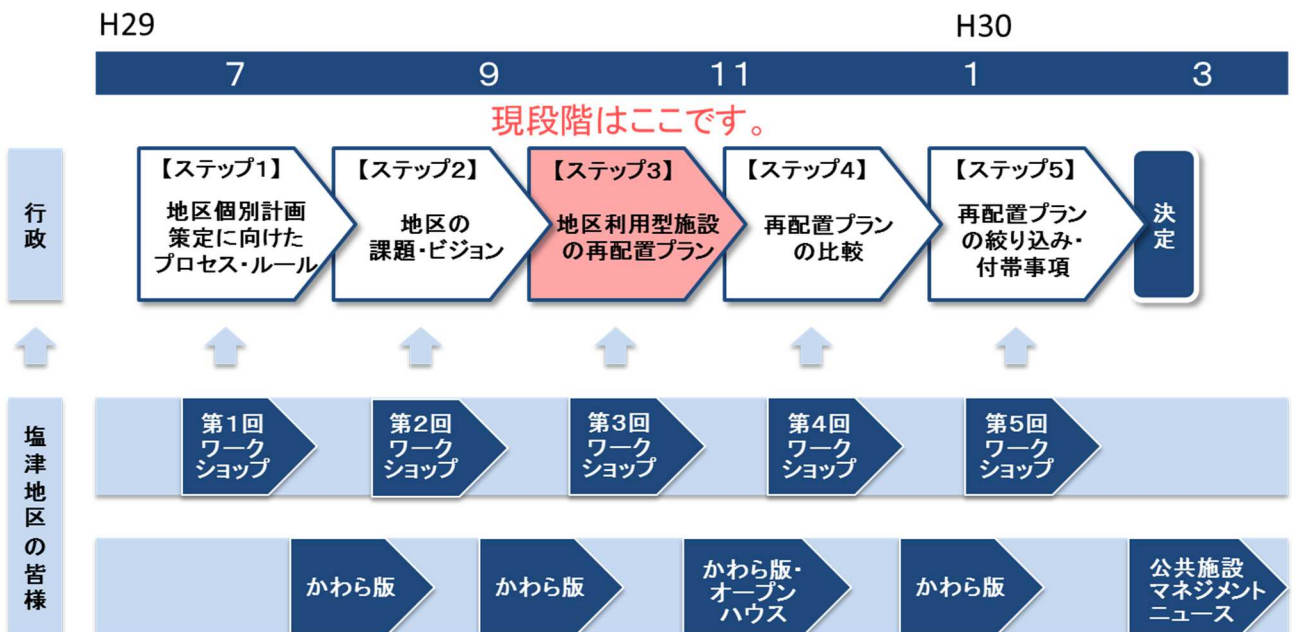
## 進め方とスケジュール

### 1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。
- ステップ5** 再配置プランの絞り込みをします。

### 2 スケジュール（予定）



### 3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版
- ・ 公共施設マネジメントニュース



#### 【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

塩津地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

#### 【かわら版】

塩津地区の各世帯に配布するチラシです。ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

#### 【公共施設マネジメントニュース】

市の全世帯に配布するチラシです。ワークショップで検討された結果をお知らせします。

## 4 ワークショップの概要

- ・ ワークショップは、平成30年2月ごろまでに5回程度開催します。
- ・ 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- ・ 会場は、原則として塩津地区内の小中学校または公民館とします。
- ・ 事務局は、蒲郡市総務部財務課が担当します。
- ・ ワークショップには、公募にご応募いただいた方が参加します。
- ・ 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ・ ワークショップでは、参加者の皆さんにグループ討議で自由にご議論いただきます。
- ・ 一般の傍聴者や報道陣が会議を傍聴することができます。

## 5 ワークショップの進め方

- ・ グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会振興を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ・ ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、会の最後に各グループの議論の結果を発表し、後日、各回の成果として取りまとめます。
- ・ グループ討議の途中の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- ・ 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ・ ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行うことがあります。会場内で録音・撮影する場合がありますことをご了承ください。

6

ワークショップの成果

- ・ ワークショップの最終回までにまとめ上げた成果は、複数の再配置プランの評価結果を比較表として整理します。
- ・ 比較表の内容の一部（あるいは全体）は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。
- ・ 各回の成果についても記録として残します。

## 第2回ワークショップ ふりかえりシートご意見

### 1 今日の議論で良かったこと

- トピックに対し、それぞれの視点に関する意見を言うことで、発言がし易かったです。
- 自分の立場では分からないことがたくさんあったので、色々な人の考え方を聞いたので、考え方の幅が広がりました。
- 多世代の人との意見交換ができてよかったです。全体の発表では、みなさまの積極的な姿勢を見ることができて、地区の良さを感じることができました。
- みなさんがいろんな事を考えている事がわかったのでよかったですと思います。
- 本来の趣旨と、流れて、今日やる事が自分の中でつながらず、どんな意見を言えば良いのか分からなかった。(説明はあったが、それでも良く分からなかった)
- 第一回の議論を踏まえてのワークショップだったので、課題がより深く考えられたと思う。
- 今日はちょっと難しい内容であった
- 意見が出にくかった、出しにくかった
- 具体的課題を出すワークショップは、難しくてディスカッションが進まないのでは。と思っていたけど、「視点」を出していただけの事で、意見を出しやすかった。
- 議論・検討項目を前回の話し合いをもとにまとめられていた為、より具体的かつそれぞれ重視するポイントを見直してきた点
- 施設の複合化集約化をするだけでない意見が出ていろいろの考え方があ



## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

と思いました

- 保育園の問題点の話が出来て良かった
- 多くの意見が出た
- （感想）頭の中に簡単なイメージが、残らないのは、なぜか？
- いろんな方の意見がきけてよかったです。

## 2 内容について言い足りなかったこと

- やはり「地区利用型施設」に絞ると言いつつも、それ単体で考えることは難しいため、全市利用型や地区の公民館、民間などとのつながりなどを考慮した上で話したいです。
- （感想）ソフト面をどうしていくかが一番大事なのかなと思いました。個人的には、デザインなどのクリエイティブクラスターの特区などにして、若いクリエイターが集まる場所になるといいなと思います。
- （質問）公共施設の建替や使い方について、今あからさまになった問題ではないはずだと思うのですが、建てられた当初にいつ建替えるかといった計画はなかったのですか。
- テーマが多すぎて考えがまとまりませんでした。
- 市の資料でも討議でもいずれも原因究明（何故・何故・・・）が浅いと思う。まとはずれの対対応策案にならないように！！
- 開会からの趣旨経緯進め方等の時間が長く、グループ討議の説明が専門的に思えて理解しづらかった。
- グループ討議の時間を長くとり、意見をどんどん出してもらってどんどんファシリテータさんがさばっていく方がよかったと思いました。
- 特にありません。只、短時間での議論なので急がされた感は少しあります。
- （進め方について）前回の資料等の説明時間が少し長く感じました。ワークショップの時間がもう少しゆったりと取れたらと思います。
- おまつりを1つにするのは難しいのでは（神社単位のおまつりだから）
- 鹿島こども園の園児数の内訳（塩津が何名、他の地区が何名か）中学校区単位で出して下さい
- かわら版のスケジュールがおくれているような気がします
- 視点①の「地区の活性化（まちづくり）」は、公共施設（ハード）とは関係

## まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

ない。運営によって、まちづくりに役立つかどうかなので、他の視点へ、要素を分割吸収して、この視点は無くして良いのではないか。

- 議論は活発になったが意見をまとめきれなかった
- 資料が送られたが、もう少し早く送ってほしい。見る時間が2日くらいしかなかったから。
- ①～⑧について均等に議論が出来なかったのが残念。少し他のグループに比べると、まとめる力が負けている気がする。

事実関係についてのご意見・ご質問への回答

ご意見・ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>塩津地区の人口が減少していく予測になっているが、その要因を分析し、改善策を考える必要がある。推計の考え方や人口減少の理由を知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的に人口の増減の要因には、出生、死亡ならびに転入・転出による人口移動がありますが、前回提示した人口推計の考え方は、出生・死亡に係る統計データを元に算出しており、人口移動は考慮していません。</li> <li>この推計は、現在約1.42である合計特殊出生率を、平成67年までに段階的に人口維持に必要とされている2.07にまで引き上げていくことを条件として算出しています。</li> <li>この推計における人口減少の主な理由は、出生率を引き上げるまでに期間がかかること、今後の高齢化が進み、死亡による急激な人口の自然減が起きることなどが考えられます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校や公民館は老朽化が進んでいるので耐震性に不安がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考に塩津地区の地区利用型施設の耐震化状況についての資料を用意しました。(p.26)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区利用型施設の複合化を検討する際、土地や建物が市所有か否かによっては複合化の足かせになることもあるのではないかと。事前に確認しておきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>借地についての資料「塩津地区借地面積一覧」(p.26)を用意しましたのでご確認ください。</li> </ul>

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

ご意見・ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童クラブが定員いっぱいになっていて、4年生以上の子どもは預かってもらえないと聞いたがどのような状況か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用希望者数と待機者数の推移が分かる資料「塩津地区児童クラブ利用希望者数」(p. 26)を用意しましたのでご確認ください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設の建替や使い方について、今あからさまになった問題ではないはずだと思うのですが、建てられた当初にいつ建替えるかといった計画はなかったのですか。 (ふりかえりシートより)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒲郡市の現在ある公共施設の多くは高度経済成長期に建てられました。</li> <li>建てられた当時は、現在のような少子高齢化や人口減少が見込まれる社会状況ではなく、人口が増加し経済成長が続くと考えられていました。</li> <li>そのような状況下で人口が増加するのに合わせて必要な施設を増やすことが最優先とされ、建替えの時期について総合的に判断して計画的に建設することはありませんでした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿島こども園の園児数の内訳(塩津が何名、他の地区が何名か)中学校区単位で出して下さい。 (ふりかえりシートより)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿島こども園の中学校区ごとの園児数を調べました。p. 27でご確認ください。</li> <li>参考に蒲郡あけぼの幼稚園についても掲載しています。</li> </ul>

塩津地区の課題と課題解決に向けた方策

視点の整理 (赤字は、第2回WSでいただいたご意見を元に修正・追加した箇所)		課題解決に向けた方策		
視点	第1回・第2回WSでいただいたご意見要約、市及び地区の課題・配慮すべき事項	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 地区の活性化 (まちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩津ならではの特徴がない</li> <li>地域交流の度合いに差異がある</li> <li>地域行事に対応した設備が不十分</li> <li>地区全体としての一体感がないに加え、参加者が高齢化し、子育て世代が参加しなくなっている</li> <li>地区内に働いて生活をしていけるような雇創出する企業がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合化することで行事や活動を一体的にできる場をつくる</li> <li>地区の顔となる施設を整備し、情報発信をすることで、地区の特徴をつくる</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域の中心となる活動拠点の整備</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事や活動の内容についての情報発信</li> </ul>
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用しやすい保育園が必要</li> <li>保育園の立地が不便</li> <li>児童クラブが定員いっぱいでは利用できない</li> <li>延長保育や低年齢児保育の未実施、入園手続きの多さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園と小学校の複合化を進めたり、幼小中一貫校や小中一貫校を導入する</li> <li>塩津小学校と連携して学校内に児童クラブを設ける</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>保育園・小学校・中学校の一体化</li> <li>小学校内への児童クラブの設置</li> <li>子育て支援施設と学校の連携</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園での延長保育や低年齢児保育の実施、入園手続きの簡素化など保護者ニーズへの対応</li> <li>保育園の民営化を含めた運営体制の検討</li> <li>保育園でのプログラムを詰め込みすぎず、伸び伸びした保育を失わないように配慮する</li> <li>保育園の地域とのふれあいを考慮する</li> <li>市内の発達支援児や日本語学習が必要な生徒を集めてサービスを提供</li> </ul>
③ 多様な方々(若者・高齢者・障がい者・外国人)が利用できる場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>世代間で交流できる機会と場所がない</li> <li>若者の地域への関心が希薄</li> <li>外国人にとっても住みやすいまちに</li> <li>増加する高齢者への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小、中学校に公民館の機能を複合化したり、小学校、児童館、保育園、公民館を複合する</li> <li>公民館を多世代交流の核となる施設と位置づけ開かれた雰囲気をつくりたまり場のような施設にする</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域の中心となる活動拠点の整備</li> <li>多様な方々の交流の場の創出</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間の喫茶店を入れるなどによる開かれた雰囲気づくり</li> <li>「いきいきサロン」の周知と利用者増につながる工夫</li> <li>外国人との関係を築くための運営の工夫</li> <li>塩津地区全体で世代間交流ができる機会をつくる</li> </ul>
④ 安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の老朽化が進む</li> <li>バリアフリー設備が不十分</li> <li>複合化を前提とした場合の防犯対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化対策により安全への不安を解消する</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>老朽化した施設の改修・改築</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に施設を複合する場合に、出入口をその他の施設とは別にするなど、学校への不審者侵入対策を図る</li> </ul>
⑤ 災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>再配置後も適正な避難所の確保が必要</li> <li>十分なスペース、津波対応が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時対応の視点から考えれば公共施設は減らさず、ある程度分散すべき</li> <li>津波時にも使える避難機能の確保</li> <li>異なる立地の施設の機能補完</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>避難所の分散配置</li> <li>避難所の機能の確保</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の充実</li> <li>地域ぐるみでの対応</li> </ul>
⑥ アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>十分な駐車スペースが必要</li> <li>地区内の各所から通いやすい配置に</li> <li>車を持たない人の送迎が円滑にできるように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園、こども園、小学校は送迎しやすい立地に配置する</li> <li>家から近い位置に施設を配置する</li> <li>保育園の徒歩で通える良さを考慮する</li> <li>十分な駐車スペースを確保する</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>アクセスしやすい場所への施設配置</li> <li>施設の分散配置</li> <li>十分な駐車スペースの確保</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路の安全性を確保</li> <li>公共交通機関の充実</li> <li>車を持たない世帯への配慮</li> <li>身近な集会場の活用・充実</li> </ul>
⑦ 将来負担(コスト)の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減・少子高齢化、税収減</li> <li>限られた税金で何が出来るか考える必要がある</li> <li>建設費と維持費をできるだけ抑える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合化、集約化によって投資を集中させることで、公共施設の機能を充実させる</li> <li>地価の安い方に集約、複合化し、高い方の土地を売却する</li> <li>低未利用地を有効活用する、使用していない備品は整理するなど、余計な出費を抑え、無駄なく活用する</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>保有施設数を絞り投資を集中</li> <li>費用対効果の高い移転先の選定</li> <li>低未利用地の有効活用</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民を管理、運営ボランティアとして活用したり、NPOや市民クラブなどの民間への事業委託を進める</li> </ul>
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用率を高める工夫を</li> <li>施設の管理体制を明確に</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人の交流を活性化するためのソフトの充実</li> <li>年代や居住地区に関わらず、誰もが参加したくなるような魅力的な行事やプログラムの提供</li> </ul>

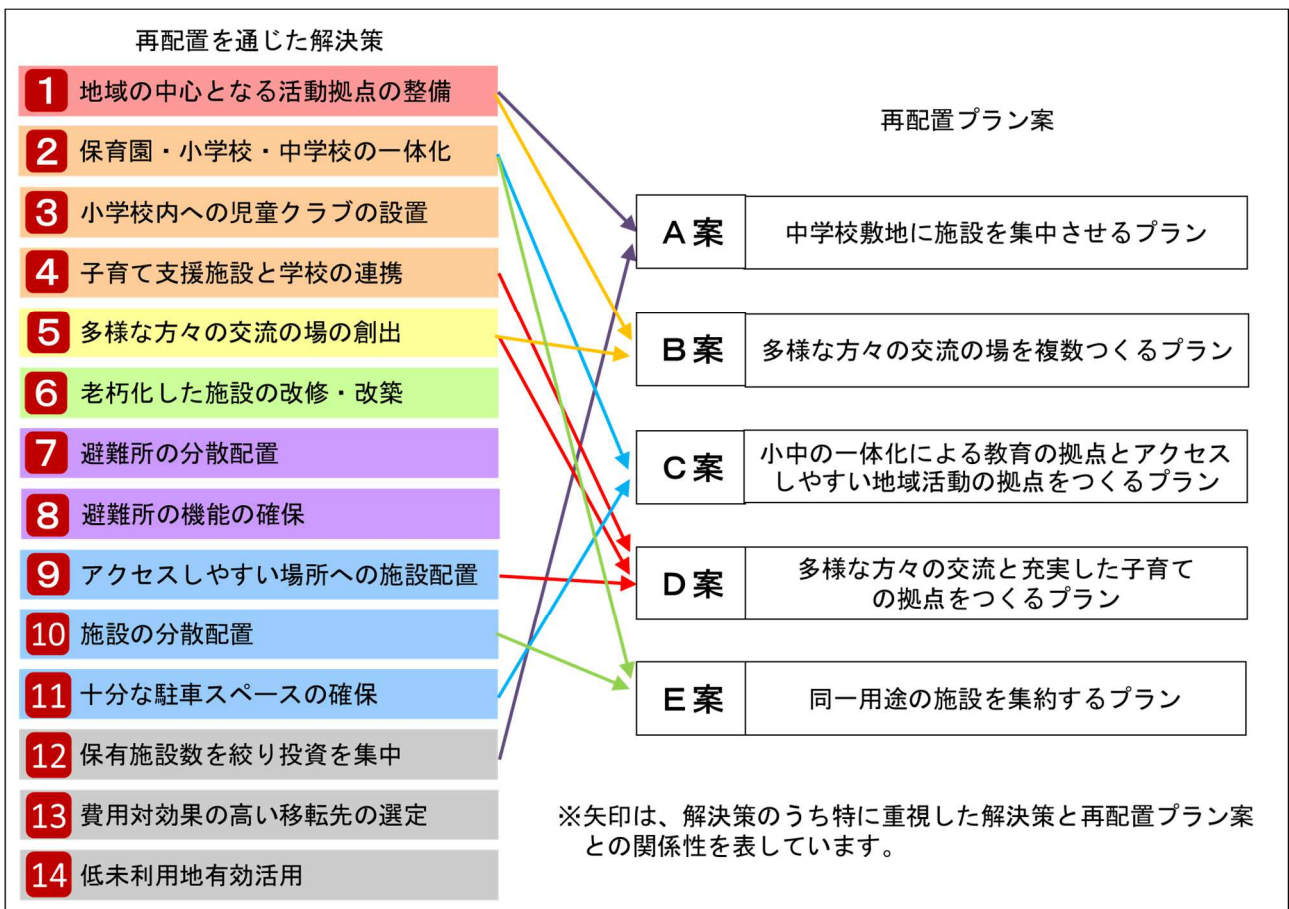


## 再配置プランの考え方

再配置を通じた課題の解決策として整理した 14 項目を用いて、それぞれ特性（コンセプト）の異なる5つの再配置プラン案を作成しました。

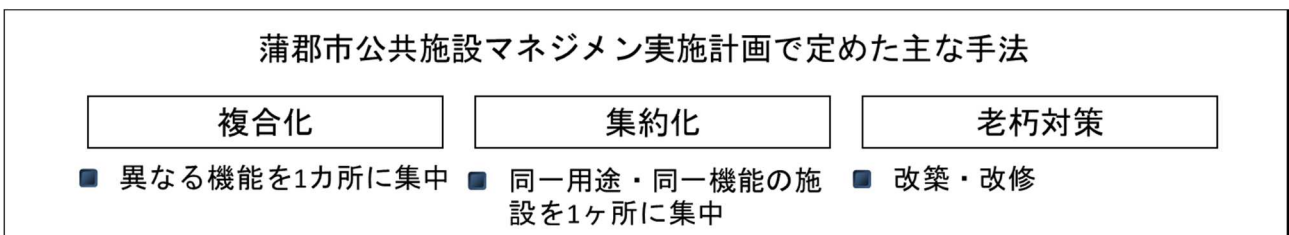
すべての課題を満足に解決する案を作成することは困難ですが、複数のプランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、検討していくことが必要です。

図：再配置を通じた解決策と再配置プラン案の関係性



（参 考）

再配置プランの作成にあたって、蒲郡市公共施設マネジメント実施計画で定めた主な手法を活用しています。

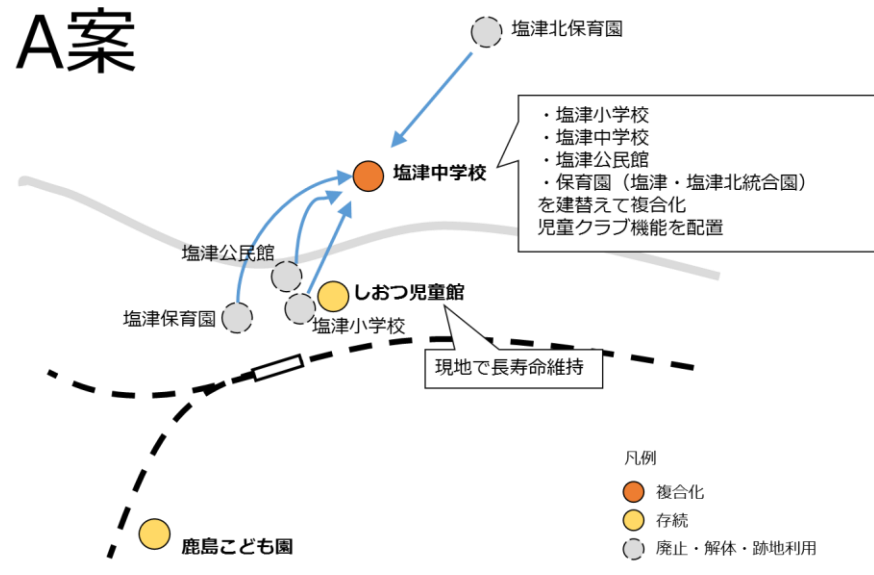


# I 施設を一箇所に集中させ、地域の拠点施設を整備する。

## 中学校敷地に施設を集中させるプラン

【重点を置いた解決策】1 12

- 塩津中学校に、塩津小学校、塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館を複合化し、教育・地域活動の拠点を形成します。



### 特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 施設数を減らすことができる。
- 保育園から中学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 小学校・公民館跡地の活用が可能。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 6 8 12 13

### 課題

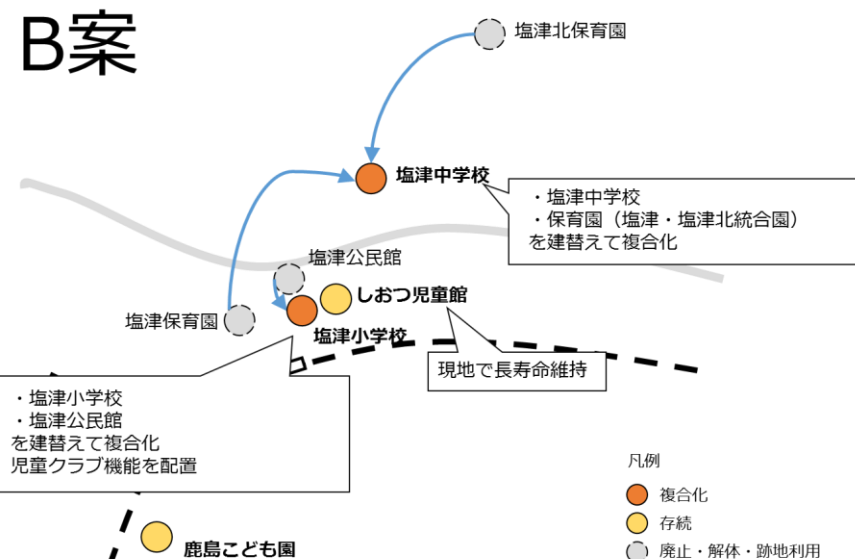
- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。
- 中学校敷地へは坂を上る必要があるため、車を持たない利用者等のアクセス性が低下する。
- 地区の南部からのアクセス性が低下する。
- 中学校の敷地面積では、必要な機能を十分に確保することは難しい可能性がある。

# II 施設を複数箇所に分散し、利便性と機能の向上を図る。

## 多様な方々の交流の場を複数つくるプラン

【重点を置いた解決策】1 5

- 塩津小学校と塩津中学校のそれぞれに、新たな機能を複合化します。
- 塩津小学校と塩津公民館を複合化し、多様な方々の交流の場を形成します。
- 塩津中学校に塩津・塩津北保育園の統合園を複合化します。



### 特徴

- 小学校が地域の行事や活動の拠点になる。
- 小学生と地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 保育園児と中学生の交流が可能となる。

【関連する解決策】1 2 3 5 6 7 8 10 13

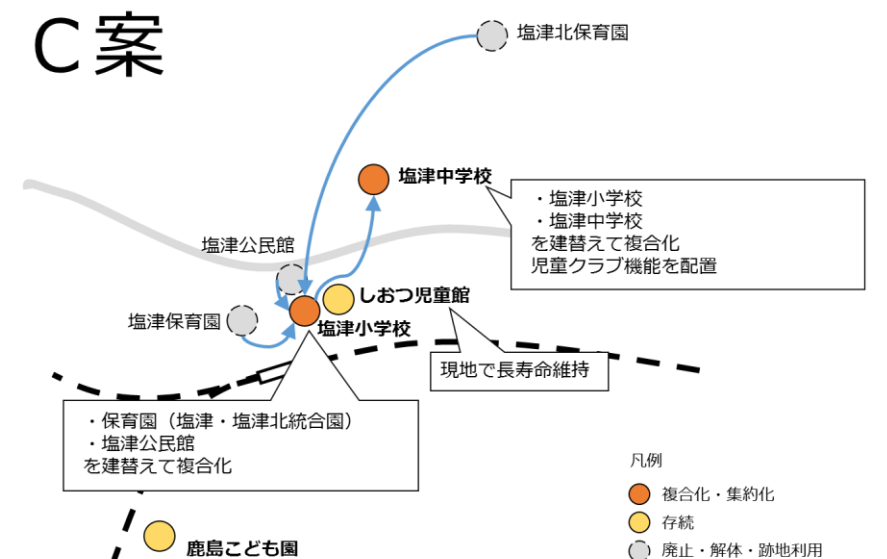
### 課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。
- 中学校敷地へは坂を上る必要があるため、車を持たない利用者等のアクセス性が低下する。

## 小中の一体化による教育の拠点とアクセスしやすい地域活動の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】2 11

- 小中学校の機能を集約した学校を塩津中学校の敷地に整備し教育の拠点を形成します。
- 塩津小学校の敷地には、塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館の複合施設を整備し、多様な方々が交流できる地域活動の拠点を形成します。



### 特徴

- 小中の一体化により教育環境を充実しやすい。また、小中は類似施設であることから安全面での問題が生じにくい。
- 保育園児と地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 交通利便性が高く、広い駐車場が確保できるアクセス性の高い複合施設ができる。
- 小学校跡地の活用が可能。

【関連する解決策】1 2 3 5 6 7 8 9 10 11 13

### 課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。



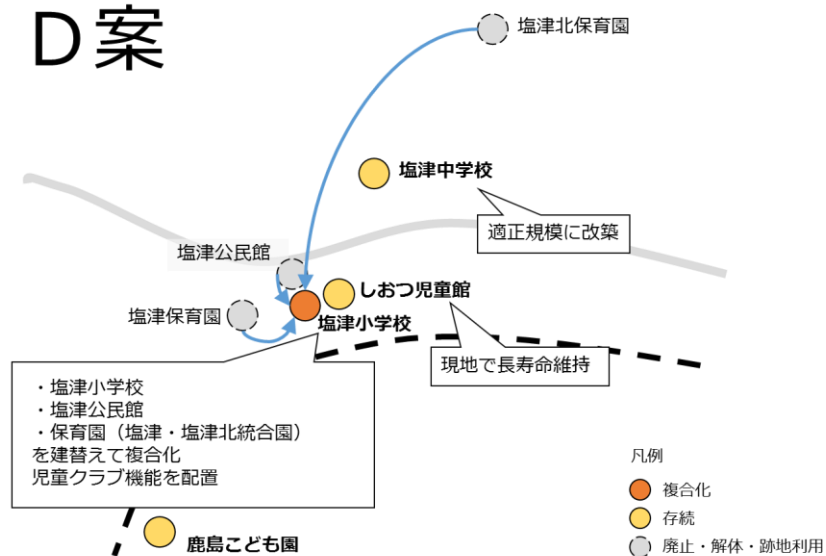
## Ⅱ 施設を複数箇所に分散し、利便性と機能の向上を図る。

多様な方々の交流と充実した子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】4 5 9

- 塩津小学校に塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館を複合化し、子育てと地域活動の拠点を形成します。

### D 案



#### 特徴

- 保育園から小学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 保育園児・小学生・地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 学校と公民館を一体的に利用した地域の行事や活動を行いやすい。
- 駅に近くアクセスしやすい位置に施設が集まる。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 13

#### 課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。

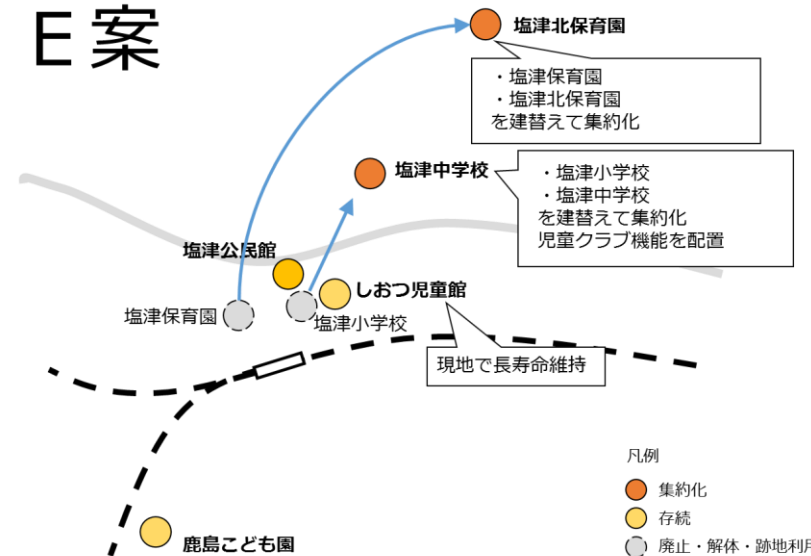
## Ⅲ 同じ用途の施設を集約化して機能強化を図る。

同一用途の施設を集約するプラン

【重点を置いた解決策】2 10

- 小中学校の機能を集約した学校を塩津中学校の敷地に整備し教育の拠点を形成します。
- 塩津・塩津北保育園の機能を塩津北保育園に集約化します。

### E 案



#### 特徴

- 小中の一体化により教育環境を充実しやすい。また、小中は類似施設であることから安全面での問題が生じにくい。
- 施設が分散されている状態が保たれる。
- 避難所の分散配置が可能である。
- 公民館の駐車場が拡張できる。
- 小学校跡地の活用が可能。

【関連する解決策】2 3 6 7 8 10 13

#### 課題

- 施設間の連携が取りにくい。
- 地域活動の一体性をつくりにくい。

#### 共通課題

- 塩津中学校・塩津北保育園の敷地は、市街化調整区域であるため、建物を建てる際には愛知県の許可を要する。

## 評価の視点

- 第1回・第2回のワークショップでいただいたご意見をもとに、施設再配置プランを検討していくための8つの視点を取りまとめました。今後、複数の再配置プラン案を比較していく際の評価の視点として活用していきます。

視 点	内 容
①地区の活性化（まちづくり）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民のつながりや塩津ならではの特徴に繋がる地区の行事や活動などが一体的に実施できる場となっているか。</li> </ul>
②子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 立地、規模、サービスの面から子育てしやすい環境となっているか。</li> <li>● 子どもの居場所・遊び場は確保されているか。</li> </ul>
③多様な方々が利用できる場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人など）が関心を持って交流できる場は用意されているか。</li> </ul>
④安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設の老朽化への対応は適切にされているか。</li> <li>● 防犯面に配慮されているか。</li> </ul>
⑤災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 避難所の数・機能・位置は適切か。</li> </ul>
⑥アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方にも配慮されているか。</li> <li>● 駐車スペースは十分確保されているか。</li> </ul>
⑦将来負担（コスト）の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。</li> <li>● 跡地は有効に活用されているか。</li> </ul>
⑧運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なし</li> </ul> <p>※再配置を実施後に配慮しなければいけない事項（付帯事項）として整理します。</p>

## 本日の検討内容

① 前回までのご意見をもとに、課題を解決するための対策として再配置プラン案を事務局で作成しました。再配置プラン案について確認したいことはありますか。各々の案について、期待できることや不安なことはありますか。

② 今後これらの再配置プラン案を評価していきますが、その評価の指標として、皆様のご意見に基づく8つの視点を活用していきます。それぞれの視点の内容について、気になることやご意見はありますか。

## ■塩津地区 地区利用型施設 耐震化状況一覧

	耐震化の状況
塩津小学校	耐震補強済み
塩津中学校	耐震補強済み
塩津保育園	耐震補強済み・平成 29 年度中に再補強予定
塩津北保育園	耐震補強済み・平成 29 年度中に再補強予定
鹿島こども園	新耐震基準による建築物
しおつ児童館	新耐震基準による建築物
塩津公民館	耐震診断の結果、耐震性能有り

## ■塩津地区 借地面積一覧

	借地面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	借地面積割合
塩津小学校	133.00	19,120.00	0.7%
塩津中学校	269.89	38,609.89	0.7%
塩津保育園	4,823.73	5,755.73	83.8%
塩津北保育園	0	2,770.00	0%
鹿島こども園	0	7,177.00	0%
しおつ児童館	2,071.62	2,071.62	100.0%
塩津公民館	689.00	1,297.60	53.1%

## ■塩津地区 児童クラブ利用希望者数

単位：人

	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	希望者	希望者の うち待機者	希望者	希望者の うち待機者	希望者	希望者の うち待機者	希望者	希望者の うち待機者
1 年生	26	0	32	0	32	2	35	0
2 年生	20	0	28	0	30	0	27	0
3 年生	14	0	15	0	22	0	28	0
4 年生	5	0	10	8	6	0	14	14
5 年生	0	0	1	0	1	0	3	3
6 年生	0	0	1	0	0	0	0	0
合 計	65	0	87	8	91	2	107	17

※1 年生は塩津保育園(定員 30 人)、2 年生以上はしおつ児童館(定員 40 人)にて実施(平成 29 年 4 月現在)

## ■鹿島こども園 園児数内訳

	園児数 (人)
大塚地区	1
三谷地区	0
蒲郡北地区 (中部中学区)	2
蒲郡南地区 (蒲郡中学区)	3
塩津地区	84
形原地区	47
西浦地区	2
計	139

※平成 29 年 9 月時点

## ■蒲郡あけぼの幼稚園 園児数内訳

	園児数 (人)
大塚地区	0
三谷地区	2
蒲郡北地区 (中部中学区)	12
蒲郡南地区 (蒲郡中学区)	17
塩津地区	33
形原地区	147
西浦地区	21
計	232

※市外在住児を除く

※平成 29 年 9 月時点

## ■保育園と幼稚園の概要

区 分	保 育 園		幼 稚 園
	公立（16園）	私立（2園）	私立（3園）
塩津地区	塩津・塩津北保育園	鹿島こども園	あけぼの幼稚園
他 地 区	形原北保育園など14園	みどり保育園	木船・あさひこ幼稚園
目 的	保護者が仕事や出産・病気などのため、保育の必要性の認定を受けた乳幼児を保育する児童福祉施設		幼児期の特性を踏まえ、遊びを大切にした教育を行う教育施設
入園対象	0～5歳児 (塩津・塩津北は3～5歳児)		3～5歳児
保 育 料 授 業 料	保護者の市町村民税所得割課税額により決定		保護者の所得に関係なく同額
保育時間 教育時間	8時間～11時間		6時間を基本 (希望者には預かり保育を実施)
	塩津	7:30～18:00	
	塩津北	8:30～16:30	
	鹿島	7:30～19:00	
入園基準	保育の必要性の有無 (保護者が仕事や出産・病気などで保育できない)		特になし
園 区	なし		なし